

# 新学習指導要領とプロジェクト型学習

## ～ COP26 とスピーチ活動～

宇都宮 正朗

### 1. はじめに

\*新学習指導要領が示す①「育成すべき資質・能力の三つの柱」及び②「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善」をテーマにプロジェクト型授業に取り組みました。

プロジェクト終了後のアンケートでは、プロジェクト全般に対して、「積極的、主体的に活動した」「やや積極的に活動した」と回答した生徒が、普通科で90%、専門科で96%という結果が出ました。

このことから、本稿で述べる学習過程(学習スタイル)は上記テーマ①②を満たし、学習者にとって有益であるのではないかと考えています。

\*新しい学習指導要領の考え方—中央教育審議会における議論から改訂そして実施へ—文部科学省

### 2. プロジェクト作成のきっかけ

2021年10月末に開催されたCOP26の開催に合わせ、CGIの恐竜が国連に現れ、人類に対してスピーチをするというニュースを見ました。ネット上でそのスピーチを探して閲覧したところ、絶滅した恐竜が「絶滅を選ばな」Don't choose extinction. と、強いメッセージを発していました。

加えて、私は前任校大分県立安心院高等学校で総合的学習の時間の新教科開発に携わる機会を得、生徒たちが主体的に取り組む授業に関する研究を経験しました。「授業後の振り返り」での生徒の記述に「対話的で深い学びの可能性」を感じていました。

「メッセージに満ちた恐竜のスピーチを題材とし、アクティブ・ラーニングの導入で、生徒の主体的学びを創造できないか。」

これがプロジェクト作成のきっかけでした。

### 3. 新学習指導要領と本プロジェクト

[知識・技能] スピーチを学ぶことで英語の音声的特徴を理解させる。話す力・聞く力を向上させる。

[思考・判断・表現力] 学習内容に関する調べ学習・英文の音声動画等の探究活動を通じてより事象への理解を深め、解釈の進んだ表現力を養う。

[学びに向かう力・人間性] 社会的・世界的な課題を主体的に捉え、国際貢献の精神を育み、多面的思考を身につけさせる。

### 4. 指導内容と方策

内容：「COP26」をテーマとし、時事的話題に触れ、調べ学習により背景知識を学んだ上でスピーチ活動に取り組む。

方策：

1. 新聞記事やタブレットを活用してCOP26等についての調べ学習を行う。調べ学習で得た情報を整理し、グループでの協働の場面及びクラス全体への共有活動を持つ。
2. 動画を活用してスピーチについて学ぶ。恐竜の絶滅について調べ、スピーチに込められたメッセージを掴む。
3. 毎時間自己評価を実施し、授業を振り返らせる。次時の冒頭で意見を紹介・評価する。

### 5. アンケート結果 最終授業時の授業アンケート

積極性・主体性	4	3	2	1
普通科	30名			
専門科	50名			
計	80名			
項目1：プロジェクト全般について	4	3	2	1
	61.3%	32.5%	6.2%	0%
項目2：スピーチについて	4	3	2	1
	53.7%	36.3%	10.0%	0%

項目3：グループ活動(他者との協働)について

4 ----- 3 ----- 2 ----- 1  
 65.0% 32.5% 2.5% 0%

**6. 授業内容と教材・活動と評価 及び確認事項**

普通科は6時間、専門科は8時間で実施。

毎時間の確認事項：プロジェクト型学習の目標

- ①テーマについて深く学ぶ  
 「調べ学習・情報の整理」
- ②グループ活動 「自分の考え・意見を述べる  
 他者の意見に耳を傾ける」
- ③「スピーチ」について学ぶ

評価項目	A 知識 技能
	B 思考力 判断力 表現力
	C 学びに向かう力・人間性

普通科6時間の例 焦点化した評価に◎

時間	内容	A	B	C
1時間目	COP26とは	○	◎	○
2時間目	国連での恐竜スピーチ	◎	○	
3時間目	日本の若者の行動 スピーチについて	○	◎	
4時間目	日本のエネルギー事情 スピーチについて	○	◎	
5時間目	スピーチ練習	◎	○	
6時間目	スピーチ・コンテスト	○	◎	

1時間目 焦点化した評価に◎

使用教材・授業内容	活動内容・狙い	A	B	C
教材1・プリント 新聞記事 COP26 閉幕時*1	読み取り 情報の整理 グループ活動 及び全体共有活動	○	◎	○
教材2・動画 イギリスBBC ニュ ース*2	英語聞き取り 10代アクティビ イストへの着目 3時間目の原さ んとの連動	○		
教材3・動画*3	2時間目使用教 材4への導入	○		
本時の振り返り及び自己評価		○	◎	○

COP26とはどのようなものなのかを新聞記事\*1を用いて学習しました。「自分の考え・意見を述べる」「他者の意見に耳を傾ける」ことを目的とし、グループ活動やクラス全体への共有活動を行いました。新聞記事をじっくりと読み取る時間を与え、「わかったこと」「考えたこと」「疑問に思ったこと」の3点を記述させ、その後グループで意見を交換させました。また、BBC\*2やFNN ニュース\*3による動画を活用し、COP26そのものに対する理解を深めると同時に英語に対する興味・関心を高める活動としました。BBCの動画の中でスウェーデンのグレタ・トゥーンベリさんが、“We will never stop fighting for this planet.”とメッセージを述べます。動画を通じ、気候変動問題の深刻さに気づき・考える生徒が多数いました。

2時間目 焦点化した評価に◎

使用教材・授業内容	活動内容・狙い	A	B	C
教材4・動画*4 教材5・プリント スピーチ原稿	スピーチ 内容理解・音読	◎	○	○
教材6・動画 「絶滅を選ぶな」*5	スピーチ 内容理解 日本語字幕入り	○		
教材7・プリント 恐竜について 生息時期・種類・ 絶滅理由	タブレット 調べ学習 情報の整理 グループ活動及 び全体共有活動		○	
本時の振り返り及び自己評価		○	◎	○

1時間目の最後に見たFNNニュースで紹介された恐竜スピーチの全編動画\*4を見せ、その後日本語字幕のある動画\*5を見て内容把握に努めました。スピーチ原稿のプリントを作成し(動画のスクリーンショット)、語彙や表現の整理をしました。スピーチの中で恐竜が「隕石」meteorsについて述べる部分があり、これが次の調べ学習へとつながります。

授業の後半では、生徒がそれぞれのタブレットを活用して恐竜の絶滅理由やどのような恐竜がいたのかを調べ、グループ活動へとつなげました。生徒の声の中には、恐竜は絶滅しないでほしかった、生きて動いている姿を見たい、などというユニークなコメントもありました。

### 3 時間目

1 時間目の BBC の動画に登場したスウェーデンのグレッタさんと連動した内容です。COP26に参加した 10 代アクティビストである原有穂さんのニュース\*6を活用して、グループ活動・全体共有活動を行いました。原さんはニュースの中で、実際に COP26 に参加して気づいたこと・気候変動と格差、貧困が深く関わっていることに触れ、将来を生きる世代として、「私たちが感じる不安は当たり前のこと。自分たちはこれから普通に生きる未来。その人権は尊重されるべき。そこを変えていくのが私がやらなければいけないこと。」とメッセージを述べていました。—スピーチ練習実施

### 4 時間目

COP26 開催中に日本は不名誉な「化石賞」を受賞しました。本時では、日本のエネルギー事情\*7や新エネルギー\*8について生徒がタブレットを活用して調べ学習を行い、その後グループ活動・全体活動へとつなげました。当初「新エネルギー」については学習内容として予定していませんでしたが、先行してプロジェクトを行っていた専門科で、経済産業省資源エネルギー庁「エネルギー白書 2021」による日本のエネルギー・発電の供給量割合のグラフを活用して発表した生徒がいました。これは是非他のクラスでも共有しなければ、との思いから指導内容を変更しました。

調べ学習の中で生徒は、太陽光・風力発電はもとよりアンモニア発電・波力発電等の新たな発見を多くしたようでした。—スピーチ練習実施

### 5 時間目

最終授業のスピーチ・コンテストに向けて入念なりハーサルを行いました。英語のみの恐竜のスピーチ動画・日本語字幕入りの動画、さらに授業プリントを活用して内容理解を深めました。音読活動を十分に行い、コンテストの準備をしました。

### 6 時間目

コンテスト直前にもう一度動画を見せ、ペア活動・個人練習を行い、スピーチを行いました。スピーチ評価は次の 4 観点としました。

1. 声の大きさ
2. 発音
3. 抑揚／リズム

### 4. 態度

生徒相互で評価をし、ベストスピーカーを選出させ、コンテスト後に“Congratulations!”のことはとともに評価カードを渡す時間を持ちました。生徒たちは楽しそうに交流していました。選ばれた生徒は、「嬉しかった、もっと頑張ろうと思った。」と語ってくれました。生徒の学びの姿・生徒同士だからこそできる学びの可能性に頼もしさを感じました。

## 7. 生徒の声 普通科・専門科

生徒の感想は以下の 3 点に大別できると思います。

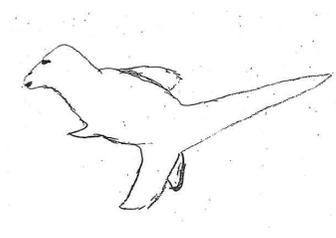
1. 英語学習そのものについて
2. 時事問題を深く学ぶことの重要性について
3. 班活動等を通じての他者からの学びについて

1. については、絶滅した恐竜からスピーチを受けることに説得力を感じた感想や、最初難解な英語だと感じていたものの、何度も動画を見たり音読をすることによって理解が進んだという感想が多くありました。動画活用等で意味理解が進むにつれ、聞こえてくる単語の数が増えたことを実感する生徒の声もあり、英語指導の方向性について考えさせられました。中には動画を活用してシャドーイングに取り組むなど、自身の学習に工夫を凝らす生徒もいました。

2. では、COP26 は聞いたことがあったが、動画や新聞、他者の意見を通じて今回初めて深く学んだという意見や、これからの未来を自分たちで考えていかなければならないという感想が多数ありました。中でも、10 代アクティビスト原有穂さんのニュースでのコメントを読んだ後の発表活動では「私たちはこれから…」「自分たちの未来は…」という意見が多く出されました。同世代の意見を読むことで、主体的に問題を捉えている姿が多く見られました。

3. では、グループ活動を通じて、自分の意見を述べることの喜び、他者の意見に耳を傾けることによる新しい視点の発見・同じ意見への共感、意見を交換することそのものの楽しさを学んだとの感想が多数ありました。加えて、調べ学習から発表・意見交換の学習過程で深い勉強ができた、今後もこの経験を活かしていきたいとの感想もありました。また、どこに分類して良いかわかりませんが、スピーチをして最後に自分が恐竜になれて嬉しかった、との微

笑ましい記述もありました。



## 8. 授業を振り返って

このプロジェクト型学習の課題解決の流れは「いかに話し手の気持を理解し、スピーチを行うか」ということになると思います。課題解決のために必要なのは、①メッセージの理解(英語理解)、②話し手の立場に対する理解(背景理解)、③メッセージの必要性に対する理解(事象に対する理解)の3点でした。

生徒の声から、英語学習に対する発見、調べ学習及び探究活動による発見、加えて、協働学習による新たな気づき・視点の獲得があり、対話的で深い学びを創造するアクティブ・ラーニングの効果が普通科・専門科ともに大いにあったと判断しています。

## 9. 終わりに

「みんなほんとは勉強するのが好きなんです。ただおしつけられるのがいやなだけです。」—John Holt(1964). *How Children Fail*, p.223.

これは、天満美智子(1922-2021)『子どもが英語につまずくとき』\*9の中のことばです。ジョン・ホルトが学校をドロップアウトした生徒から聞いたことばだとされています。

“You know, kids really like to learn: we just don't like being pushed around.” Anna, who was in the six grade and had been kicked out of her previous school as a hopeless student and generally bad kid, said.\*10

今、私たちの役割は、「子どもたちに学習材料・手だて・方策を提示する」だけにとどまらず、「生徒自らの発見と表現及び共有の場を設定する」という転換期に来たと考えます。先を生きた学習者としてのアドバイスのみならず、学びの姿を提示しファシリテイトすること・コーチングすることが求められています。

指導と評価の一体化は、私たち自身の指導を振り返り再形成する極めて重要な機会であり、双方向に

作用するものだと考えます。いわんやカリキュラムについても再考の時期に来ているのではないかと思います。

今回のプロジェクト型学習から、新学習指導要領が唱える「新しい時代の新しい学びの姿」を見出せた気がしています。楽しい時間でした。

## 参考文献等

- \* 1 気温上昇「1.5度以下追求」読売新聞1面  
令和3年11月16日(火曜日)
- \* 2 イギリスBBCニュース COP26とはいったい何なのか 2分で解説
- \* 3 FNN プライムオンライン「人類は自滅する気なのか？」恐竜が国連で英語スピーチ
- \* 4 Don't Choose Extinction-UNDP | United Nations | Jack Black | Climate Action
- \* 5 「絶滅を選ぶな」恐竜が国連で訴え COP26前に動画公開「毎日新聞」
- \* 6 令和3年11月12日(金曜日)NHK 総合 21:00 ニュースウオッチ9
- \* 7 日本の火力発電、なぜ廃止できないの？ NHK.JP オンライン
- \* 8 Sustainable Japan サイト
- \* 9 天満美智子(1982). 『子どもが英語につまずくとき 学校英語への提言』. 研究者出版. p.2.
- \* 10 Holt, John(1982). *How Children Fail Revised Edition*. New York: A Merloyd Lawrence Book.

(大分県立国東高等学校 教諭)